

四半期報告書

(第38期第3四半期)

自 平成23年7月1日
至 平成23年9月30日

株式会社 **スタジオアリス**

大阪市北区梅田一丁目8番17号

(E03393)

目 次

頁

表 紙

第一部	企業情報	1
第1	企業の概況	1
1	主要な経営指標等の推移	1
2	事業の内容	2
3	関係会社の状況	2
4	従業員の状況	2
第2	事業の状況	3
1	生産、受注及び販売の状況	3
2	事業等のリスク	4
3	経営上の重要な契約等	4
4	財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析	4
第3	設備の状況	6
第4	提出会社の状況	7
1	株式等の状況	7
(1)	株式の総数等	7
(2)	新株予約権等の状況	7
(3)	行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等	7
(4)	ライツプランの内容	7
(5)	発行済株式総数、資本金等の推移	7
(6)	大株主の状況	7
(7)	議決権の状況	8
2	株価の推移	8
3	役員の状況	8
第5	経理の状況	9
1	四半期連結財務諸表	10
(1)	四半期連結貸借対照表	10
(2)	四半期連結損益計算書	12
(3)	四半期連結キャッシュ・フロー計算書	14
2	その他	22
第二部	提出会社の保証会社等の情報	23

[四半期レビュー報告書]

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	近畿財務局長
【提出日】	平成23年11月11日
【四半期会計期間】	第38期第3四半期（自 平成23年7月1日 至 平成23年9月30日）
【会社名】	株式会社スタジオアリス
【英訳名】	STUDIO ALICE Co.,Ltd.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 川村 廣明
【本店の所在の場所】	大阪市北区梅田一丁目8番17号
【電話番号】	(06) 6343-2600
【事務連絡者氏名】	常務取締役管理本部長 宗岡 直彦
【最寄りの連絡場所】	大阪市北区梅田一丁目8番17号
【電話番号】	(06) 6343-2600
【事務連絡者氏名】	常務取締役管理本部長 宗岡 直彦
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

回次	第37期 第3四半期連結 累計期間	第38期 第3四半期連結 累計期間	第37期 第3四半期連結 会計期間	第38期 第3四半期連結 会計期間	第37期
会計期間	自平成22年 1月1日 至平成22年 9月30日	自平成23年 1月1日 至平成23年 9月30日	自平成22年 7月1日 至平成22年 9月30日	自平成23年 7月1日 至平成23年 9月30日	自平成22年 1月1日 至平成22年 12月31日
売上高（千円）	19,230,769	20,713,193	7,446,640	7,871,219	32,840,167
経常利益（△は損失）（千円）	△492,070	888,633	555,511	571,467	4,650,445
四半期（当期）純利益（△は損失） （千円）	△721,931	△15,307	226,895	198,190	1,206,016
純資産額（千円）	—	—	10,800,977	12,393,139	12,691,761
総資産額（千円）	—	—	21,050,367	21,023,688	21,660,448
1株当たり純資産額（円）	—	—	613.83	701.65	725.55
1株当たり四半期（当期）純利益 金額（△は損失）（円）	△42.02	△0.89	13.21	11.54	70.20
潜在株式調整後1株当たり四半期 （当期）純利益金額（円）	—	—	—	—	—
自己資本比率（％）	—	—	50.1	57.3	57.5
営業活動による キャッシュ・フロー（千円）	△479,184	△15,954	—	—	5,812,928
投資活動による キャッシュ・フロー（千円）	△2,282,028	△2,298,020	—	—	△2,777,962
財務活動による キャッシュ・フロー（千円）	2,314,569	322,169	—	—	△616,372
現金及び現金同等物の四半期末 （期末）残高（千円）	—	—	3,637,290	4,647,922	6,513,157
従業員数 （ほか、平均臨時雇用者数） （人）	—	—	1,787 (1,788)	1,524 (2,044)	1,749 (2,319)

（注）1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しているため、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載していません。

2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。

3. 潜在株式が存在しないため、潜在株式調整後1株当たり四半期（当期）純利益は記載していません。

4. 従業員数は就業人員であります。臨時雇用者数は、契約社員及び短期アルバイトの人数であり、1日8時間で換算した平均人員を（ ）内に外数で記載しております。

2【事業の内容】

当第3四半期連結会計期間において、当社グループ（当社及び当社の関係会社）が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社における異動もありません。

3【関係会社の状況】

当第3四半期連結会計期間において、重要な関係会社の異動はありません。

4【従業員の状況】

(1) 連結会社の状況

平成23年9月30日現在

従業員数（人）	1,524（2,044）
---------	--------------

（注）従業員数は、就業人員であります。臨時雇用者数は、契約社員及び短期アルバイトの人数であり、1日8時間で換算した当第3四半期連結会計期間の平均人員を（ ）内に外数で記載しております。

(2) 提出会社の状況

平成23年9月30日現在

従業員数（人）	1,179（1,764）
---------	--------------

（注）従業員数は、就業人員であります。臨時雇用者数は、契約社員及び短期アルバイトの人数であり、1日8時間で換算した当第3四半期会計期間の平均人員を（ ）内に外数で記載しております。

第2【事業の状況】

1【生産、受注及び販売の状況】

(1) 生産実績

当社グループは売上高の99.1%がこども写真事業であり、スタジオ写真撮影という事業の特性から製品の在庫が極めて少ないため、生産状況は販売状況に類似しております。

(2) 受注状況

衣装製造卸売事業で一部受注生産を行っておりますが、売上高のうち受注生産の占める割合が極めて僅少であるため、受注状況は記載しておりません。

(3) 販売実績

セグメントの名称	当第3四半期連結会計期間 (自 平成23年7月1日 至 平成23年9月30日)		
	売上高(千円)	前年同期比(%)	構成比(%)
こども写真事業	7,803,370	112.2	99.1
衣装製造卸売事業	67,849	13.8	0.9
合計	7,871,219	105.7	100.0

(注) 1. 当社グループのこども写真事業の売上高は、通常の営業の形態として、第4四半期の撮影機会(七五三等)が多いため他の四半期連結会計期間における売上高に比べ、第4四半期連結会計期間の売上高が多くなるといった季節的変動があります。

2. 上記売上高金額には消費税等は含まれておりません。

3. セグメント間の取引については相殺消去しております。

(4) 地域別売上高及び店舗数

地域別の販売状況は次のとおりであります。

地域別	当第3四半期連結会計期間 (自 平成23年7月1日 至 平成23年9月30日)		
	売上高(千円)	前年同期比(%)	店舗数(店)
北海道	185,943	109.4	11
東北	415,388	119.9	23
関東	3,693,822	109.7	177
中部	1,010,039	116.5	56
近畿	1,122,344	111.2	66
中国	404,332	108.4	22
四国	136,599	111.3	7
九州	642,876	109.1	33
その他	192,023	174.5	—
こども写真事業 計	7,803,370	112.2	395
衣装製造卸売事業	67,849	13.8	—
合計	7,871,219	105.7	395

(注) 1. 上記売上高金額には消費税等は含まれておりません。

2. セグメント間の取引については相殺消去しております。

3. こども写真事業の「その他」はフランチャイジーからのロイヤリティー収入などであります。

4. 上記店舗数は、当第3四半期連結会計期間末日の国内こども写真事業スタジオ直営店舗数を記載しております。
5. 関東地域には、ペット写真スタジオ1店舗を含んでおります。

2 【事業等のリスク】

当第3四半期連結会計期間において、新たに発生した事業等のリスクはありません。
また、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについて重要な変更はありません。

3 【経営上の重要な契約等】

当第3四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

4 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

1. 連結経営成績に関する定性的情報

(1) 経営成績の分析

当第3四半期連結会計期間におけるわが国の経済は、設備投資や個人消費など民間需要が持ち直し、景況感は緩やかに持ち直してきたものの、米景気の減速懸念の強まりや、欧州財政の不安再燃による株式市場の低迷や円高により、先行き不透明な状況で推移いたしました。

このような状況のもと、当社グループは、主力であるこども写真事業において、競合他社と明確な差別化を図り、お客様に選んでいただけるお店になるための取り組みをおこなってまいりました。

以上の結果、当第3四半期連結会計期間の売上高は7,871百万円（前年同期比5.7%の増加）、営業利益は602百万円（対前年同期2百万円の増加）、経常利益は571百万円（対前年同期15百万円の増加）、四半期純利益は198百万円（対前年同期28百万円の減少）となりました。

各セグメントの業績は、次のとおりであります。

(こども写真事業)

こども写真事業は、競合他社との差別化を図るため、本格的な七五三シーズンを前に、浅田真央選手のオリジナルブランドである「Mao Mao」ブランドで初となる、撮影用こども衣装（和装、洋装）を導入するとともに、例年行っております撮影用こども衣装（和装、洋装）の入替を行いました。また、新商品開発では、「マイフォトコレクションシンプル(ホワイト)」(デザインアルバム)やキーホルダー等を導入し、商品ラインナップの増強を図りました。

営業面においては、「早撮り七五三キャンペーン」、並びに、「七五三お出かけ着物レンタル」の件数獲得を図るため、折込チラシの枚数と実施回数を増やし、更に、9月から始まる「七五三撮影でアリスデビュー」キャンペーン（七五三撮影をされる新規のお客様対象）をアピールする新たなCMを制作し、前年同時期を大きく上回る本数のCMを全国で放映いたしました。

これらの取り組みにより、フランチャイズ店舗を含む全店の七五三撮影件数は、前年同期比で10.8%の増加となりました。

国内の出店状況は、移転6店舗を含み8店舗を出店し、次世代型への改装は25店舗実施いたしました。一方退店は、移転による6店舗となりました。

その結果、当第3四半期連結会計期間末の店舗数は、国内こども写真館404店舗（直営店舗394店・フランチャイズ店舗10店）、ペット写真館1店舗、韓国の子会社におけるこども写真館4店舗、台湾の合弁会社におけるこども写真館3店舗、および、同合弁会社の運営による中国のこども写真館2店舗を含め、414店舗となっております。

以上の結果、こども写真事業の売上高は7,803百万円、セグメント利益は588百万円となりました。

(衣装製造卸売事業)

衣装製造卸売事業は、主力であるこども写真事業向けに、浅田真央選手の「Mao Mao」ブランド衣装（和装、洋装）や、年度入替用の衣装を生産いたしました。

以上の結果、衣装製造卸売事業の売上高は402百万円、セグメント利益は64百万円となりました。

(2) 財務状況の分析

① 資産の状況

当第3四半期連結会計期間末における資産は、前連結会計年度末と比べ636百万円減少し21,023百万円となりました。

流動資産は繰延税金資産の減少等により、前連結会計年度末と比べ921百万円減少の9,582百万円となりました。

固定資産は繰延税金資産の増加等により、前連結会計年度末と比べ284百万円増加の11,440百万円となりました。

② 負債の状況

当第3四半期連結会計期間末における負債は、前連結会計年度末と比べ338百万円減少し、8,630百万円となりました。

流動負債は短期借入金の増加、未払法人税等の減少等により、前連結会計年度末と比べ790百万円減少の7,216百万円となりました。

固定負債は資産除去債務の増加等により、前連結会計年度末と比べ452百万円増加の1,413百万円となりました。

③ 純資産の状況

当第3四半期連結会計期間末における純資産は、前連結会計年度末と比べ298百万円減少し12,393百万円となりました。

これは主に、当第3四半期連結累計期間純利益（損失）及び前年度の剰余金の処分（配当金支払い）などによるものです。

(3) キャッシュ・フローの状況

当第3四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、第2四半期連結会計期間末に比べ326百万円減少し、4,647百万円となりました。各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動の結果得られた資金は、主に税金等調整前四半純利益484百万円、減価償却費654百万円、法人税等の支払額1,017百万円などにより、前年同四半期連結会計期間に比べて37百万円増加し、415百万円となりました。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動の結果使用した資金は、主に写真スタジオの新規出店及び既存店の改装・設備追加等にかかる支出951百万円などにより、前年同四半期連結会計期間に比べて269百万円増加し、876百万円となりました。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

財務活動の結果得られた資金は、主にファイナンス・リース債務の返済による支出317百万円、短期借入金の純増減額400百万円などにより、前年同四半期連結会計期間に比べて754百万円減少し、131百万円となりました。

(4) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第3四半期連結会計期間において、当社グループが対処すべき課題について重要な変更はありません。

(5) 研究開発活動

該当事項はありません。

第3【設備の状況】

(1) 主要な設備の状況

当第3四半期連結会計期間において、主要な設備に重要な異動はありません。

(2) 設備の新設、除却等の計画

前四半期連結会計期間末において計画中であった設備の新設等の計画のうち、当第3四半期連結会計期間に完了した主なものは、次のとおりであります。

提出会社

事業所 (所在地)	セグメントの名称	設備の内容	投資額 (千円)	完成年月日	従業員数 (人)
川崎ルフロン店他1店 (神奈川県川崎市他)	こども写真事業	新店舗設備	51,977	平成23年9月	3 (0)

(注) 上記金額には、消費税等は含まれておりません。

第4【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

①【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	30,888,000
計	30,888,000

②【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間末 現在発行数(株) (平成23年9月30日)	提出日現在発行数(株) (平成23年11月11日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	17,185,650	17,185,650	東京証券取引所 市場第一部	単元株式数 100株
計	17,185,650	17,185,650	—	—

(2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総数 増減数(株)	発行済株式総 数残高(株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金増 減額(千円)	資本準備金残 高(千円)
平成23年7月1日 ～平成23年9月30日	—	17,185,650	—	1,885,950	—	2,055,449

(6)【大株主の状況】

大量保有報告書の写しの送付がなく、当第3四半期会計期間において、大株主の異動は把握しておりません。

(7) 【議決権の状況】

当第3四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が把握できないため、記載することができないことから、直前の基準日（平成23年6月30日）に基づく株主名簿による記載をしております。

① 【発行済株式】

平成23年9月30日現在

区分	株式数（株）	議決権の数（個）	内容
無議決権株式	—	—	—
議決権制限株式（自己株式等）	—	—	—
議決権制限株式（その他）	—	—	—
完全議決権株式（自己株式等）	普通株式 6,200	—	単元株式数 100株
完全議決権株式（その他）	普通株式 17,161,300	171,613	同上
単元未満株式	普通株式 18,150	—	1単元(100株) 未満の株式
発行済株式総数	17,185,650	—	—
総株主の議決権	—	171,613	—

② 【自己株式等】

平成23年9月30日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式数（株）	他人名義所有株式数（株）	所有株式数の合計（株）	発行済株式総数に対する所有株式数の割合（%）
㈱スタジオアリス	大阪市北区梅田 1-8-17	6,200	—	6,200	0.04
計	—	6,200	—	6,200	0.04

2 【株価の推移】

【当該四半期累計期間における月別最高・最低株価】

月別	平成23年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
最高（円）	838	889	948	895	914	1,140	1,358	1,618	1,610
最低（円）	768	820	665	823	854	893	1,105	1,164	1,354

（注） 最高・最低株価は、東京証券取引所市場第一部におけるものであります。

3 【役員状況】

前事業年度の有価証券報告書の提出日後、当四半期報告書の提出日までにおいて役員の変動はありません。

第5【経理の状況】

1. 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号。以下「四半期連結財務諸表規則」という。）に基づいて作成しております。

なお、前第3四半期連結会計期間（平成22年7月1日から平成22年9月30日まで）及び前第3四半期連結累計期間（平成22年1月1日から平成22年9月30日まで）は、改正前の四半期連結財務諸表規則に基づき、当第3四半期連結会計期間（平成23年7月1日から平成23年9月30日まで）及び当第3四半期連結累計期間（平成23年1月1日から平成23年9月30日まで）は、改正後の四半期連結財務諸表規則に基づいて作成しております。

2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、前第3四半期連結会計期間（平成22年7月1日から平成22年9月30日まで）及び前第3四半期連結累計期間（平成22年1月1日から平成22年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表並びに当第3四半期連結会計期間（平成23年7月1日から平成23年9月30日まで）及び当第3四半期連結累計期間（平成23年1月1日から平成23年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表について、有限責任監査法人トーマツによる四半期レビューを受けております。

1 【四半期連結財務諸表】
 (1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	当第3四半期連結会計期間末 (平成23年9月30日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成22年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	5,042,104	6,907,339
受取手形及び売掛金	1,087,471	1,085,193
商品及び製品	140,371	95,176
仕掛品	26,415	56,002
原材料及び貯蔵品	699,987	592,322
繰延税金資産	344,068	494,195
その他	2,307,957	1,336,594
貸倒引当金	△65,460	△62,200
流動資産合計	9,582,917	10,504,624
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	7,781,355	7,464,710
減価償却累計額	△3,733,444	△3,754,096
建物及び構築物（純額）	4,047,910	3,710,614
機械装置及び運搬具	810,440	774,193
減価償却累計額	△625,230	△600,698
機械装置及び運搬具（純額）	185,210	173,495
工具、器具及び備品	3,525,944	3,611,938
減価償却累計額	△2,415,118	△2,897,494
工具、器具及び備品（純額）	1,110,826	714,444
土地	650,076	650,076
リース資産	1,985,091	2,449,566
減価償却累計額	△1,123,258	△1,166,329
リース資産（純額）	861,832	1,283,237
建設仮勘定	2,048	5,527
有形固定資産合計	6,857,904	6,537,395
無形固定資産		
のれん	73,975	92,545
その他	488,465	510,001
無形固定資産合計	562,440	602,547
投資その他の資産		
投資有価証券	35,191	57,418
長期貸付金	200,000	200,000
繰延税金資産	1,064,644	983,115
敷金及び保証金	2,837,140	2,891,907
その他	12,349	12,338
貸倒引当金	△128,900	△128,900
投資その他の資産合計	4,020,425	4,015,880
固定資産合計	11,440,770	11,155,823
資産合計	21,023,688	21,660,448

(単位：千円)

	当第3四半期連結会計期間末 (平成23年9月30日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成22年12月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	305,300	435,555
短期借入金	2,550,000	1,813,600
1年内返済予定の長期借入金	73,332	—
未払法人税等	78,086	1,433,842
リース債務	1,079,913	1,129,220
事業整理損失引当金	56,732	460,000
賞与引当金	3,141	9,288
未払費用	1,316,834	1,208,635
その他	1,753,236	1,516,924
流動負債合計	7,216,578	8,007,067
固定負債		
退職給付引当金	386,637	353,593
長期借入金	55,003	—
リース債務	449,916	521,850
資産除去債務	375,000	—
その他	147,413	86,175
固定負債合計	1,413,970	961,619
負債合計	8,630,549	8,968,687
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,885,950	1,885,950
資本剰余金	2,055,449	2,055,449
利益剰余金	8,228,728	8,631,841
自己株式	△9,222	△9,206
株主資本合計	12,160,905	12,564,034
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	—	△133
為替換算調整勘定	△107,040	△99,429
評価・換算差額等合計	△107,040	△99,563
少数株主持分	339,274	227,290
純資産合計	12,393,139	12,691,761
負債純資産合計	21,023,688	21,660,448

(2) 【四半期連結損益計算書】
【第3四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成22年1月1日 至 平成22年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成23年1月1日 至 平成23年9月30日)
売上高	※2 19,230,769	※2 20,713,193
売上原価	14,683,315	15,134,625
売上総利益	4,547,454	5,578,567
販売費及び一般管理費	※1 4,963,630	※1 4,650,854
営業利益又は営業損失(△)	△416,176	927,712
営業外収益		
受取利息	3,069	2,583
受取家賃	25,868	23,892
受取手数料	7,455	—
雑収入	17,555	36,690
営業外収益合計	53,948	63,166
営業外費用		
支払利息	43,858	30,204
貸貸費用	8,940	—
店舗解約損	26,598	46,190
為替差損	24,909	11,374
貸倒引当金繰入額	12,000	—
雑損失	13,536	14,475
営業外費用合計	129,842	102,245
経常利益又は経常損失(△)	△492,070	888,633
特別利益		
固定資産売却益	—	10,490
特別利益合計	—	10,490
特別損失		
固定資産売却損	—	39,652
固定資産廃棄損	173,323	157,351
減損損失	214,378	36,538
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	—	249,231
災害による損失	—	65,141
特別損失合計	387,701	547,915
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	△879,772	351,209
法人税、住民税及び事業税	423,548	242,233
法人税等調整額	△635,869	44,183
法人税等合計	△212,320	286,417
少数株主損益調整前四半期純利益	—	64,792
少数株主利益	54,479	80,099
四半期純損失(△)	△721,931	△15,307

【第3四半期連結会計期間】

(単位：千円)

	前第3四半期連結会計期間 (自 平成22年7月1日 至 平成22年9月30日)	当第3四半期連結会計期間 (自 平成23年7月1日 至 平成23年9月30日)
売上高	※2 7,446,640	※2 7,871,219
売上原価	5,278,839	5,556,018
売上総利益	2,167,800	2,315,201
販売費及び一般管理費	※1 1,567,712	※1 1,712,595
営業利益	600,088	602,605
営業外収益		
受取利息	999	883
受取家賃	8,294	7,663
受取手数料	641	—
貸倒引当金戻入額	—	5,000
雑収入	5,231	5,469
営業外収益合計	15,167	19,016
営業外費用		
支払利息	16,916	10,811
賃貸費用	2,968	—
店舗解約損	4,610	32,402
為替差損	14,513	5,231
貸倒引当金繰入額	12,000	—
雑損失	8,734	1,708
営業外費用合計	59,743	50,154
経常利益	555,511	571,467
特別損失		
固定資産売却損	—	39,652
固定資産廃棄損	27,527	35,953
減損損失	19,124	11,565
特別損失合計	46,651	87,171
税金等調整前四半期純利益	508,859	484,295
法人税、住民税及び事業税	204,965	117,178
法人税等調整額	43,873	146,682
法人税等合計	248,838	263,861
少数株主損益調整前四半期純利益	—	220,433
少数株主利益	33,126	22,243
四半期純利益	226,895	198,190

(3) 【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成22年1月1日 至 平成22年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成23年1月1日 至 平成23年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	△879,772	351,209
減価償却費	1,690,181	1,868,223
のれん償却額	70,633	18,570
貸倒引当金の増減額(△は減少)	26,900	2,990
賞与引当金の増減額(△は減少)	△3,231	△5,950
退職給付引当金の増減額(△は減少)	39,674	33,043
受取利息	△3,069	△2,583
支払利息	43,858	30,204
為替差損益(△は益)	8,255	△678
有形固定資産廃棄損	145,486	156,753
減損損失	214,378	36,538
売上債権の増減額(△は増加)	△347,867	22,861
たな卸資産の増減額(△は増加)	1,653	△139,485
仕入債務の増減額(△は減少)	△117,981	△116,146
事業整理損失引当金の増減額(△は減少)	—	△403,267
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	—	249,231
未払消費税等の増減額(△は減少)	△262,610	△253,662
その他の流動資産の増減額(△は増加)	△22,209	△2,340
その他の流動負債の増減額(△は減少)	596,248	521,039
その他	△104,465	93,771
小計	1,096,061	2,460,321
利息の受取額	1,145	629
利息の支払額	△41,484	△30,204
法人税等の支払額	△1,534,905	△2,381,560
災害損失の支払額	—	△65,141
営業活動によるキャッシュ・フロー	△479,184	△15,954
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△2,007,419	△2,226,316
無形固定資産の取得による支出	△119,596	△110,117
子会社株式の取得による支出	△35,000	—
差入保証金の差入による支出	△182,164	△106,759
差入保証金の回収による収入	68,308	142,693
その他	△6,156	2,479
投資活動によるキャッシュ・フロー	△2,282,028	△2,298,020
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額(△は減少)	2,450,000	736,400
長期借入金の返済による支出	—	△54,999
セール・アンド・リースバックによる収入	997,958	1,028,801
ファイナンス・リース債務の返済による支出	△703,713	△958,530
自己株式の取得による支出	△183	△16
配当金の支払額	△429,491	△429,485
財務活動によるキャッシュ・フロー	2,314,569	322,169
現金及び現金同等物に係る換算差額	△12,987	261
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△459,630	△1,991,543
現金及び現金同等物の期首残高	4,096,920	6,513,157
新規連結に伴う現金及び現金同等物の増加額	—	126,309
現金及び現金同等物の四半期末残高	※1 3,637,290	※1 4,647,922

【四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更】

	当第3四半期連結累計期間 (自 平成23年1月1日 至 平成23年9月30日)
1. 連結の範囲に関する事項の変更	<p>(1) 連結の範囲の変更 第1四半期連結会計期間より、株式会社豊匠は重要性が増したため、連結の範囲に含めております。</p> <p>(2) 変更後の連結子会社の数 3社</p>
2. 会計処理基準に関する事項の変更	<p>資産除去債務に関する会計基準の適用 第1四半期連結会計期間より、「資産除去債務に関する会計基準」(企業会計基準第18号 平成20年3月31日)及び「資産除去債務に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第21号 平成20年3月31日)を適用しております。</p> <p>これにより、当第3四半期連結累計期間の営業利益、経常利益は28,198千円減少し、税金等調整前四半期純利益は261,335千円減少しております。また、当会計基準等の適用開始による資産除去債務の変動額は359,689千円であります。</p>

【表示方法の変更】

当第3四半期連結累計期間

(自 平成23年1月1日

至 平成23年9月30日)

(四半期連結損益計算書)

1. 「連結財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第22号 平成20年12月26日)に基づく「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則等の一部を改正する内閣府令」(平成21年3月24日 内閣府令第5号)の適用により、当第3四半期連結累計期間では、「少数株主損益調整前四半期純利益」の科目で表示しております。
2. 前第3四半期連結累計期間において区分掲記しておりました「受取手数料」は、営業外収益の総額の100分の20以下となったため、当第3四半期連結累計期間より「雑収入」に含めて表示することに変更いたしました。なお、当第3四半期連結累計期間の営業外収益の「雑収入」に含まれる「受取手数料」は、1,757千円であります。
3. 前第3四半期連結累計期間において区分掲記しておりました「賃貸費用」は、営業外費用の総額の100分の20以下となったため、当第3四半期連結累計期間より「雑損失」に含めて表示することに変更いたしました。なお、当第3四半期連結累計期間の営業外費用の「雑損失」に含まれる「賃貸費用」は、6,335千円であります。

当第3四半期連結会計期間

(自 平成23年7月1日

至 平成23年9月30日)

(四半期連結損益計算書)

1. 「連結財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第22号 平成20年12月26日)に基づく「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則等の一部を改正する内閣府令」(平成21年3月24日 内閣府令第5号)の適用により、当第3四半期連結会計期間では、「少数株主損益調整前四半期純利益」の科目で表示しております。
2. 前第3四半期連結会計期間において区分掲記しておりました「受取手数料」は、営業外収益の総額の100分の20以下となったため、当第3四半期連結会計期間より「雑収入」に含めて表示することに変更いたしました。なお、当第3四半期連結会計期間の営業外収益の「雑収入」に含まれる「受取手数料」は、16千円であります。
3. 前第3四半期連結会計期間において区分掲記しておりました「賃貸費用」は、営業外費用の総額の100分の20以下となったため、当第3四半期連結会計期間より「雑損失」に含めて表示することに変更いたしました。なお、当第3四半期連結会計期間の営業外費用の「雑損失」に含まれる「賃貸費用」は、1,287千円であります。

【注記事項】

(四半期連結損益計算書関係)

前第3四半期連結累計期間 (自 平成22年1月1日 至 平成22年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成23年1月1日 至 平成23年9月30日)																								
<p>※1 販売費及び一般管理費のうち主要な費用及び金額は次のとおりであります。</p> <table> <tr> <td>給料手当</td> <td>1,152,048千円</td> </tr> <tr> <td>退職給付費用</td> <td>14,753千円</td> </tr> <tr> <td>広告宣伝費</td> <td>2,050,878千円</td> </tr> <tr> <td>減価償却費</td> <td>85,381千円</td> </tr> <tr> <td>のれん償却費</td> <td>70,633千円</td> </tr> <tr> <td>貸倒引当金繰入額</td> <td>27,578千円</td> </tr> </table> <p>※2 当社グループの売上高は、通常の営業の形態として、第4四半期の撮影機会（七五三等）が多いため他の四半期連結会計期間における売上高に比べ、第4四半期連結会計期間の売上高が多くなるといった季節的変動があります。</p>	給料手当	1,152,048千円	退職給付費用	14,753千円	広告宣伝費	2,050,878千円	減価償却費	85,381千円	のれん償却費	70,633千円	貸倒引当金繰入額	27,578千円	<p>※1 販売費及び一般管理費のうち主要な費用及び金額は次のとおりであります。</p> <table> <tr> <td>給料手当</td> <td>952,396千円</td> </tr> <tr> <td>退職給付費用</td> <td>14,143千円</td> </tr> <tr> <td>広告宣伝費</td> <td>2,224,035千円</td> </tr> <tr> <td>減価償却費</td> <td>64,196千円</td> </tr> <tr> <td>のれん償却費</td> <td>18,570千円</td> </tr> <tr> <td>貸倒引当金繰入額</td> <td>16,653千円</td> </tr> </table> <p>※2 当社グループの売上高は、通常の営業の形態として、第4四半期の撮影機会（七五三等）が多いため他の四半期連結会計期間における売上高に比べ、第4四半期連結会計期間の売上高が多くなるといった季節的変動があります。</p>	給料手当	952,396千円	退職給付費用	14,143千円	広告宣伝費	2,224,035千円	減価償却費	64,196千円	のれん償却費	18,570千円	貸倒引当金繰入額	16,653千円
給料手当	1,152,048千円																								
退職給付費用	14,753千円																								
広告宣伝費	2,050,878千円																								
減価償却費	85,381千円																								
のれん償却費	70,633千円																								
貸倒引当金繰入額	27,578千円																								
給料手当	952,396千円																								
退職給付費用	14,143千円																								
広告宣伝費	2,224,035千円																								
減価償却費	64,196千円																								
のれん償却費	18,570千円																								
貸倒引当金繰入額	16,653千円																								

前第3四半期連結会計期間 (自 平成22年7月1日 至 平成22年9月30日)	当第3四半期連結会計期間 (自 平成23年7月1日 至 平成23年9月30日)																								
<p>※1 販売費及び一般管理費のうち主要な費用及び金額は次のとおりであります。</p> <table> <tr> <td>給料手当</td> <td>382,909千円</td> </tr> <tr> <td>退職給付費用</td> <td>5,016千円</td> </tr> <tr> <td>広告宣伝費</td> <td>610,371千円</td> </tr> <tr> <td>減価償却費</td> <td>28,996千円</td> </tr> <tr> <td>のれん償却費</td> <td>23,544千円</td> </tr> <tr> <td>貸倒引当金繰入額</td> <td>4,974千円</td> </tr> </table> <p>※2 当社グループの売上高は、通常の営業の形態として、第4四半期の撮影機会（七五三等）が多いため他の四半期連結会計期間における売上高に比べ、第4四半期連結会計期間の売上高が多くなるといった季節的変動があります。</p>	給料手当	382,909千円	退職給付費用	5,016千円	広告宣伝費	610,371千円	減価償却費	28,996千円	のれん償却費	23,544千円	貸倒引当金繰入額	4,974千円	<p>※1 販売費及び一般管理費のうち主要な費用及び金額は次のとおりであります。</p> <table> <tr> <td>給料手当</td> <td>277,672千円</td> </tr> <tr> <td>退職給付費用</td> <td>4,781千円</td> </tr> <tr> <td>広告宣伝費</td> <td>935,023千円</td> </tr> <tr> <td>減価償却費</td> <td>22,115千円</td> </tr> <tr> <td>のれん償却費</td> <td>6,190千円</td> </tr> <tr> <td>貸倒引当金繰入額</td> <td>9,988千円</td> </tr> </table> <p>※2 当社グループの売上高は、通常の営業の形態として、第4四半期の撮影機会（七五三等）が多いため他の四半期連結会計期間における売上高に比べ、第4四半期連結会計期間の売上高が多くなるといった季節的変動があります。</p>	給料手当	277,672千円	退職給付費用	4,781千円	広告宣伝費	935,023千円	減価償却費	22,115千円	のれん償却費	6,190千円	貸倒引当金繰入額	9,988千円
給料手当	382,909千円																								
退職給付費用	5,016千円																								
広告宣伝費	610,371千円																								
減価償却費	28,996千円																								
のれん償却費	23,544千円																								
貸倒引当金繰入額	4,974千円																								
給料手当	277,672千円																								
退職給付費用	4,781千円																								
広告宣伝費	935,023千円																								
減価償却費	22,115千円																								
のれん償却費	6,190千円																								
貸倒引当金繰入額	9,988千円																								

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

前第3四半期連結累計期間 (自 平成22年1月1日 至 平成22年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成23年1月1日 至 平成23年9月30日)												
<p>※1 現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係 (平成22年9月30日現在)</p> <table> <tr> <td>現金及び預金勘定</td> <td>3,988,103千円</td> </tr> <tr> <td>預入期間が3ヶ月を超える定期預金</td> <td>△350,813千円</td> </tr> <tr> <td>現金及び現金同等物</td> <td><u>3,637,290千円</u></td> </tr> </table>	現金及び預金勘定	3,988,103千円	預入期間が3ヶ月を超える定期預金	△350,813千円	現金及び現金同等物	<u>3,637,290千円</u>	<p>※1 現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係 (平成23年9月30日現在)</p> <table> <tr> <td>現金及び預金勘定</td> <td>5,042,104千円</td> </tr> <tr> <td>預入期間が3ヶ月を超える定期預金</td> <td>△394,181千円</td> </tr> <tr> <td>現金及び現金同等物</td> <td><u>4,647,922千円</u></td> </tr> </table>	現金及び預金勘定	5,042,104千円	預入期間が3ヶ月を超える定期預金	△394,181千円	現金及び現金同等物	<u>4,647,922千円</u>
現金及び預金勘定	3,988,103千円												
預入期間が3ヶ月を超える定期預金	△350,813千円												
現金及び現金同等物	<u>3,637,290千円</u>												
現金及び預金勘定	5,042,104千円												
預入期間が3ヶ月を超える定期預金	△394,181千円												
現金及び現金同等物	<u>4,647,922千円</u>												

(株主資本等関係)

当第3四半期連結会計期間末(平成23年9月30日)及び当第3四半期連結累計期間(自平成23年1月1日至平成23年9月30日)

1. 発行済株式の種類及び総数

普通株式 17,185,650株

2. 自己株式の種類及び株式数

普通株式 6,258株

3. 新株予約権等に関する事項

該当事項はありません。

4. 配当に関する事項

決 議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基 準 日	効力発生日	配当の原資
平成23年3月30日 定時株主総会	普通株式	429,485	25	平成22年12月31日	平成23年3月31日	利益剰余金

(セグメント情報等)

【事業の種類別セグメント情報】

前第3四半期連結会計期間（自平成22年7月1日 至平成22年9月30日）

	こども写真事業 (千円)	婚礼衣装製造 卸売事業 (千円)	計 (千円)	消去又は全社 (千円)	連結 (千円)
売上高					
(1) 外部顧客に対する売上高	6,954,774	491,866	7,446,640	—	7,446,640
(2) セグメント間の内部売上高又は 振替高	—	266,255	266,255	(266,255)	—
計	6,954,774	758,121	7,712,895	(266,255)	7,446,640
営業利益（又は営業損失）	556,187	51,355	607,542	(7,454)	600,088

前第3四半期連結累計期間（自平成22年1月1日 至平成22年9月30日）

	こども写真事業 (千円)	婚礼衣装製造 卸売事業 (千円)	計 (千円)	消去又は全社 (千円)	連結 (千円)
売上高					
(1) 外部顧客に対する売上高	17,855,422	1,375,347	19,230,769	—	19,230,769
(2) セグメント間の内部売上高又は 振替高	—	1,067,522	1,067,522	(1,067,522)	—
計	17,855,422	2,442,870	20,298,292	(1,067,522)	19,230,769
営業利益（又は営業損失）	(230,787)	(64,786)	(295,574)	(120,601)	(416,176)

(注) 1. 事業区分の方法

事業は、製品又は役務の種類、製造方法、販売市場等の類似性を考慮して区分しております。

2. 各区分に属する主要な製品・役務の内容

こども写真事業 ……スタジオ写真の撮影・制作・加工、ディスプレイ制作、印刷等
婚礼衣装製造卸売事業 ……婚礼用ドレス・撮影用衣装等の制作・販売

【所在地別セグメント情報】

前第3四半期連結会計期間（自平成22年7月1日 至平成22年9月30日）及び前第3四半期連結累計期間（自平成22年1月1日 至平成22年9月30日）

本邦の売上高は、全セグメントの売上高の合計に占める割合が90%超であるため、所在地別セグメント情報の記載を省略しております。

【海外売上高】

前第3四半期連結会計期間（自平成22年7月1日 至平成22年9月30日）及び前第3四半期連結累計期間（自平成22年1月1日 至平成22年9月30日）

海外売上高は、連結売上高の10%未満であるため、海外売上高の記載を省略しております。

【セグメント情報】

1. 報告セグメントの概要

当社の報告セグメントは、当社の構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、取締役会が、経営資源の配分の決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものであります。

当社グループはサービス及び製品別のセグメントから構成されており、スタジオ写真の撮影・制作・加工、ディスプレイ制作、印刷等を行う「こども写真事業」、撮影用衣装等の制作・販売等を行う「衣装製造卸売事業」の2つを報告セグメントとしております。

2. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

当第3四半期連結累計期間（自平成23年1月1日 至平成23年9月30日）

（単位：千円）

	報告セグメント			調整額 (注1)	四半期連結損益 計算書計上額 (注2)
	こども写真事業	衣装製造卸売事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	20,102,200	610,992	20,713,193	—	20,713,193
セグメント間の 内部売上高又は 振替高	—	1,255,787	1,255,787	△1,255,787	—
計	20,102,200	1,866,780	21,968,980	△1,255,787	20,713,193
セグメント利益	879,921	214,101	1,094,023	△166,310	927,712

(注) 1. セグメント利益調整額△166,310千円には、セグメント間取引に関わる調整額11,873千円、固定資産の調整額等△16,704千円及び各報告セグメントに配分していない全社費用△161,479千円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

当第3四半期連結会計期間（自平成23年7月1日 至平成23年9月30日）

（単位：千円）

	報告セグメント			調整額 (注1)	四半期連結損益 計算書計上額 (注2)
	こども写真事業	衣装製造卸売事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	7,803,370	67,849	7,871,219	—	7,871,219
セグメント間の 内部売上高又は 振替高	—	334,235	334,235	△334,235	—
計	7,803,370	402,085	8,205,455	△334,235	7,871,219
セグメント利益	588,681	64,092	652,773	△50,167	602,605

(注) 1. セグメント利益調整額△50,167千円には、セグメント間取引に関わる調整額△3,616千円、固定資産の調整額等3,895千円及び各報告セグメントに配分していない全社費用△50,446千円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

重要性が乏しいため、記載を省略しております。

(追加情報)

第1四半期連結会計期間より、「セグメント情報等の開示に関する会計基準」(企業会計基準第17号 平成21年3月27日)及び「セグメント情報等の開示に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第20号 平成20年3月21日)を適用しております。

(ストック・オプション等関係)

該当事項はありません。

(1株当たり情報)

1. 1株当たり純資産額

当第3四半期連結会計期間末 (平成23年9月30日)		前連結会計年度末 (平成22年12月31日)	
1株当たり純資産額	701.65円	1株当たり純資産額	725.55円

2. 1株当たり四半期純利益金額又は1株当たり四半期純損失金額

前第3四半期連結累計期間 (自平成22年1月1日 至平成22年9月30日)		当第3四半期連結累計期間 (自平成23年1月1日 至平成23年9月30日)	
1株当たり四半期純損失金額	42.02円	1株当たり四半期純損失金額	0.89円
なお、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。		なお、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。	

(注) 1株当たり四半期純損失金額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自平成22年1月1日 至平成22年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成23年1月1日 至平成23年9月30日)
1株当たり四半期純損失金額		
四半期純損失(千円)	721,931	15,307
普通株主に帰属しない金額(千円)	—	—
普通株式に係る四半期純損失(千円)	721,931	15,307
期中平均株式数(千株)	17,179	17,179

前第3四半期連結会計期間 (自平成22年7月1日 至平成22年9月30日)		当第3四半期連結会計期間 (自平成23年7月1日 至平成23年9月30日)	
1株当たり四半期純利益金額	13.21円	1株当たり四半期純利益金額	11.54円
なお、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。		なお、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。	

(注) 1株当たり四半期純利益金額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第3四半期連結会計期間 (自平成22年7月1日 至平成22年9月30日)	当第3四半期連結会計期間 (自平成23年7月1日 至平成23年9月30日)
1株当たり四半期純利益金額		
四半期純利益(千円)	226,895	198,190
普通株主に帰属しない金額(千円)	—	—
普通株式に係る四半期純利益(千円)	226,895	198,190
期中平均株式数(千株)	17,179	17,179

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2【その他】

該当事項はありません。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成22年11月4日

株式会社スタジオアリス
取締役会 御中

有限責任監査法人 トーマツ

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 西村 猛 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 藤川 賢 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社スタジオアリスの平成22年1月1日から平成22年12月31日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間（平成22年7月1日から平成22年9月30日まで）及び第3四半期連結累計期間（平成22年1月1日から平成22年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書及び四半期連結キャッシュ・フロー計算書について四半期レビューを行った。この四半期連結財務諸表の作成責任は経営者にあり、当監査法人の責任は独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。四半期レビューは、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続により行われており、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べ限定された手続により行われた。

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社スタジオアリス及び連結子会社の平成22年9月30日現在の財政状態、同日をもって終了する第3四半期連結会計期間及び第3四半期連結累計期間の経営成績並びに第3四半期連結累計期間のキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

- (注) 1. 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。
2. 四半期連結財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれておりません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成23年11月4日

株式会社スタジオアリス
取締役会 御中

有限責任監査法人 トーマツ

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 西村 猛 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 藤川 賢 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社スタジオアリスの平成23年1月1日から平成23年12月31日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間（平成23年7月1日から平成23年9月30日まで）及び第3四半期連結累計期間（平成23年1月1日から平成23年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書及び四半期連結キャッシュ・フロー計算書について四半期レビューを行った。この四半期連結財務諸表の作成責任は経営者にあり、当監査法人の責任は独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。四半期レビューは、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続により行われており、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べ限定された手続により行われた。

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社スタジオアリス及び連結子会社の平成23年9月30日現在の財政状態、同日をもって終了する第3四半期連結会計期間及び第3四半期連結累計期間の経営成績並びに第3四半期連結累計期間のキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

- (注) 1. 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。
2. 四半期連結財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれておりません。